# 消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

# 【事例概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	機関員養成に係るポンプスロットル誤操作に伴う筒先員負傷事案。
3. 体験した事例の中心的要素	放水訓練中、養成機関員のポンプスロットル誤操作により放水圧力が急激に上昇し筒先員が強い反動を受けたため、管そうの先端部分が右眼付近に当たり負傷したもの。
4. 体験した事例の原因・理由	・機関員養成中であり、経験が不足していた。 ・注意不足及びあせりがあった。 ・筒先員が危険予知できなかった。

# 【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。

# 【体験した事例について】

1. 発生日時	平成 19 年 10 月 8 日 午後 2 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外:消防署敷地内
4. 体験した事例の種類	他人が、回答者を負傷させた。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場	軽傷
合、仮に負傷したときの程度)	
6. どのようなことが起きたのか	飛来・落下ぶつにぶつかる
(起きそうになったのか)	
7. 事例体験時の活動	その他: [ ]
8. (7の活動中)	その他:ポンプ車から送水中に起こった事案
どのような作業中に発生したか	
9. 同様の体験は、これまでにどの	初めて体験した。
程度の頻度で体験していますか。	

### 10. 事例体験者の属性(回答者は当事者A)

〇当事者 A	年齢[31]歳、 勤続年数[9]年、 現場経験年数[8]年、 階級[消防士]、
	同様の活動 [ 1年に数度]、 任務 [ 機関員]
〇当事者B	年齢[26]歳、 勤続年数[4]年、 現場経験年数[3]年、 階級[消防士]、
	同様の活動 [ 初めて ]、 任務 [ その他:機関員養成中 ]
〇当事者C	年齢[33]歳、 勤続年数[11]年、 現場経験年数[7]年、 階級[消防司令補]、
	同様の活動 [ 初めて ]、 任務 [ 車長 ]
その他	
(当事者が4人以上の場合)	

#### 11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 A、B、C	機関員養成のため、揚水訓練を実施した。	
	が		
経過2	当事者 B が	簡易水槽に水を張り、吸管にて揚水。	
経過3	当事者Aが	筒先員となり、簡易水槽に戻すよう放水していた。	
経過4	当事者Cが	安全管理者として、監督・指導をしていた。	
経過5	当事者 A、B、C	揚水訓練の反復を行っていた。	
	が		
経過6	当事者 B が	ポンプ操作中、筒先員がふらつく。	
経過7	当事者 B が	放水圧力を下げようと、ポンプスロットルを回したが	
		逆に回してしまった。	
経過8	当事者 A が	放水圧力が急激に上昇し、管そうが跳ね上がり右眼付	
		近に当たった。	
経過9	当事者Aが	管そうが当たった拍子に管そうを保持できず、反動力	
		で管そうが地面に叩きつける。	
経過 10	当事者 A、B、C	筒先員が負傷したことにより訓練の中止。	
	が		

# 【その事例発生時の状況について】

○事故の場合:事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合:ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか?

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。危険情報を把握、予見できなかった。危険事象の対応方法を知らなかった。集中力、注意力がなかった。避難・退避がうまくいかなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。他隊(員)から適切な注意を受けられなかった。

# 〇心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという"あせり"を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており"あせり"を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより"あせり"を感じていた。	いいえ

#### b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。

いいえ

・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

#### ○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装信	構・資機材自体に問題があった。	いいえ
· 装值	備・資機材の使用方法が誤っていた。 	はい
・装信	備・資機材の対処能力を超えていた。 	いいえ
• 必	要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

#### ○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が	見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため	周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

# ○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

# ○その他

I. その他の理由があった。

いいえ

〇注意力欠如、焦り等の対策について   個人・・・以前にも増し危険予知、事故防止について意識するようになった。   署所・・・事故防止に関する委員会を開催し、安全対策、事故防止について議論が交わされた。
〇装備・資機材の対策について
○活動環境の対策について
○指揮・情報伝達の対策について

【事故発生後の取り組みについて】

